



所 得

「人は何のために生きるか」とは、トルストイにとつての命題であつたようだが、我々凡人にとつては、金のために生きているのが一番の実感のようである。人の所得はそのために人にとつて最大の関心事であり、統計でさえ、つまりは所得のために奉仕しているではないか。

所得倍増論は景気のいい話だが、どうせあてにならない話なら、景気のいいはつたりを歓迎する。

公務員にとつて、給与表は、自分の運命の予定表であり、自分の10年後の給料が幾らで、退職金が幾らと簡単にはじき出せることは、随分と夢のない味気ない話で、考えて見ると、自分の将来の所得は「神のみぞ知る」の方が、むしろ張り合いが出て来るのではないだろうか。

その点、水商売の所得には、あてにならない不安定さが伴つており、時にお客さんが神様のように有難くなる。

いづれにしても、統計表が人間を所得階層別に分類するということは、たとえそれが人間にとつて価値のある統計だとしても悲しいことだ。

編集者注 その意味で次頁からの県民所得の推計を熟読されたい。